

WATER SYSTEM

WOODLAND SCENICS & KATO
WATER SYSTEM SERIES



ディープウォーター クリアー
マーキー
きれいな水景の作り方!

DEEP POUR WATER CLEAR / CW4510-CW4511 INSTRUCTION



水景造りの準備

各ページをよくお読みになってからご使用ください。

あると便利!



アルミホイル

水温計



筆や刷毛

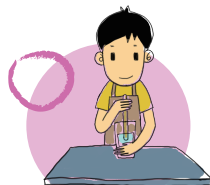
ピンセット



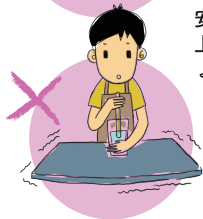
シリコンマット



シリコンマットを敷いておくと、こぼれて固まってしまったディープウォーターをベリッと簡単に剥がしてお掃除できます。



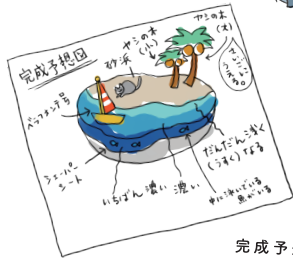
安定した机・台の上で作業をしましょう。



エプロンを着用したり、汚れてもよい服装でお楽しみください。



室温が低すぎると水面に膜が発生する可能性が高くなります。また、風が直接当たらないようにご注意ください。



完成予想図のスケッチ

ディープウォーター クリアー マーキー

セットの内容

クリアーとマーキーの違いはディープウォーターAのみで他は同一製品です。

ディープウォーターB
(小さい方のボトル)

混合用スティック2本

ディープウォーターA

(大きい方のボトル)

取扱説明書
(本書です)

クリアーの場合は透明な液が、
マーキーの場合は濁った液が
入っています。

ビニール袋

混合用カップ
2個

メジャーシール
2枚

ビニール手袋
2組

注意 事項

1 ディープウォーターは必ずAとBの液を組み合わせてください。

2 ディープウォーターは硬化する際に熱が発生しますので、AとBを混合したものをカップの中に20分以上放置しないでください。量が多いほど、発生する熱量は大きくなります。

3 大きなサイズの水量を作る際には、複数回に分けて作業する必要があります。
(詳しくは後のページをご覧ください)

もう一つの
「あると便利」!

別売の「ディープウォーター付属アクセサリキット」(品番24-365)には、ディープウォーターセットに入っている混合用カップ、メジャーシール、混合用スティック、ビニール手袋が5セットずつ入っています。

同じカップを繰り返し使っていると、埃やゴミが混入しやすくなります。少しずつディープウォーターを使用するときには、アクセサリキットのご利用をお勧めいたします。

ジオラマの下地を
完成させる

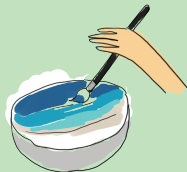
地形を作って水景の場所を決め、
ディープウォーターを注ぎ入れる
準備を整えます。

ディープウォーターは非常に浸透性の高い素材で、
小さな穴からでも漏れ出してしまいます。
美しい水景造りの第一段階として、まずは水景を
造る場所を完全に密閉しましょう。



①「密閉その①」

別売のプラスタークロス(品番24-302)
などを使用して、成形した地形の「密閉
その①」を行います。

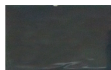


②「密閉その②」

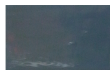
シリーズ商品「水底カラー」(全6色)や、
または画材として販売されている100%
アクリル塗料を使用して、水底を着色し
ます。「水底カラー」とアクリル塗料は
混色してお好きな色を造り出すことが
できます。

③ ディープウォーターを入れる前に
完全に乾燥させてください。

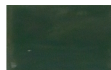
ウォーターシステムシリーズ
「水底(みなそこ)カラー」は6色!



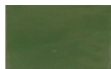
24-358
ディープブルー



24-359
ネイビーブルー



24-360
ダークグリーン



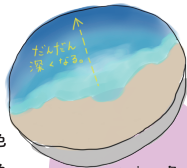
24-361
モスグリーン



24-362
ダークオリーブ



24-363
ライトブラウン



水底を塗る時は、

- ・深い部分は濃い色
- ・浅い部分は薄い色

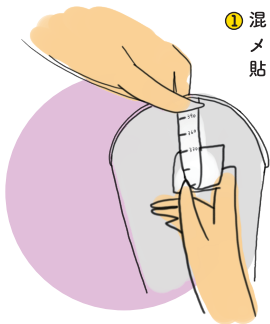
の基本に気をつけながら
塗ってみましょう。

水底の色で
水の深さを
表現しよう。

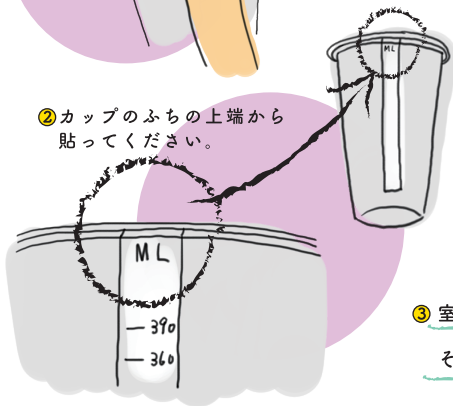
ディープウォーター
を適温にする。

美しい水景造りのために、ディープウォーター
の下準備をしましょう。

- ① 混合用カップに
メジャーシールを
貼ります。



- ② カップのふちの上端から
貼ってください。



触れられないくらい
の熱湯は適しません。

ディープウォーターは
温度と湿度に
とても敏感です。



温度計があると
便利!



ディープウォーターAとBをビニール袋に入れて空気を抜きながらチャックをしめ、50度前後のお湯につけて温めます。

- ③ 室温が20度～22度の部屋に置いてあった場合には10分間、
それより低い温度の部屋の場合は15分間つけてください。

水の色を
決定する。

水の色を変更することで、透明度や
深度の表現が更に多彩になります。

ウォーターシステムシリーズ「波音カラー」を使って
水に色をつけてみましょう。

●色合いのテストのやり方

①

テストは水道水で行えます。
未使用の混合用カップにAと
Bを足した量と同量の水を入
れ、「波音カラー」を一滴ず
つ垂らしてください。
ディープウォーターへの効果
と同じ色合いが確認できます。



●量に注意!

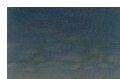
②

「波音カラー」は30mlの
ディープウォーターに対し
一滴が目安です。また30
mlのディープウォーターあ
たり8滴を超えないよう
にしてください。一度に一滴
ずつ垂らし、その都度静か
に攪拌しお好みの透明度を
確認してください。

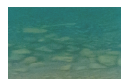
「波音カラー」の量が少ない
ほどディープウォーターの
透明度は高く保てます。

「波音カラー」追加の目安は
13ページをご覧ください。

ウォーターシステムシリーズ
「波音カラー」は7色。
混色も可能です。



24-350
ネイビーブルー



24-351
ターコイズ



24-352
モスグリーン



24-353
セージグリーン



24-354
ダークオリーブ



24-355
ライトブラウン



24-356
ブラウン

「波音カラー」の 簡単な修整方法

修整は直ちに行う必要があります。

「波音カラー」を加えジオラマに注いだ後でも、
直後でしたらご希望の透明度に修整が可能です。

① 深さの表現を追加したい場合

すでに注がれている1/4の量のディープウォーターにより濃い色の「波音カラー」を入れて注いでください。

② 深すぎた表現を修整する場合

すでに注がれている1/4の量の透明なディープウォーターを混ぜ合わせます。

水の色も水底と同じように、深いところほど濃く見えます。

水層によって色を変えてみると、より深度のある水景表現が可能になります。

「波音カラー」はウォーターシステムシリーズの波の表現素材・「さざ波」(品番24-348)、

「大波小波」(品番24-349)や、「リアリスティック・ウォーター」(品番24-338)、

「ウォーターエフェクト」(24-339)とも組み合わせてご使用いただけます。

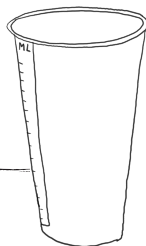
ディープウォーター
AとBを混合する①

チャートを見て量を決定する。



混合するときは
必ずビニール手袋を
つけて作業してください。

チャートの数字が
混合用カップの目盛
にない場合は、
近似値に切り上げて
ください。



- ① 温めたディープウォーターAとBをビニール袋から取り出して、ボトルが温まっている(熱すぎない)ことを確認してください。

熱くなりすぎている場合はすぐに使用せず、少し冷ましてからご使用ください。
温めすぎたディープウォーターは濁りが発生する可能性が高くなります。

- ② ボトルを5秒間、ゆっくりと前後に傾けて中身の温度が均一になるようにしてください。
このとき、ボトルを振らないようにしてください。



より詳しく正確に量を
計算したい方は、こちら
にアクセスしてください。
(英語版のサイトに
なります)

ディープウォーターA+B
混合チャート

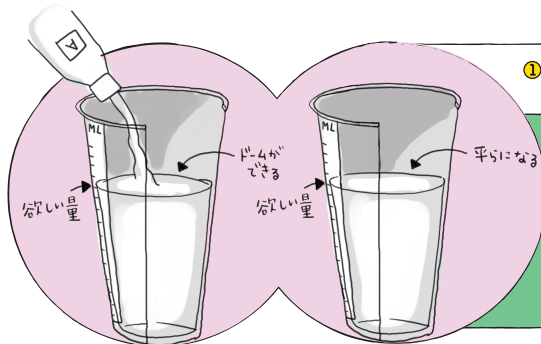
TOTAL (A+B)	A	B
390	260	130
360	240	120
330	220	110
300	200	100
270	180	90
240	160	80
210	140	70
180	120	60
150	100	50
120	80	40
90	60	30
45	30	15

単位はmlです。

上記チャートよりもディープ
ウォーターが必要な場合には、
もう1セットご用意ください。

ディープウォーター
AとBを混合する②

混合比は2(A):1(B)



- ① チャートで決定したA剤をカップに注ぎます。波立たないようにゆっくりと入れましょう。

A剤は決定したカップの目盛よりも手前で一旦止めてください。表面張力でドームができ、予想よりも高い位置で平坦化します。そのため、はじめは少なめに注ぎ、それからゆっくりと決定した目盛の量まで注いでください。注いだ後は必ずボトルのキャップを閉めてください。

- ② 次に、正しい比率の量のB剤を追加し、注ぎ終わったらボトルのキャップを閉めてください。

- ③ カップに注いだA剤とB剤を5分間ゆっくりと混ぜ合わせます。

携帯電話のストップウォッチ機能などを使って計測しましょう。



- ④ 「波音カラー」を追加する場合

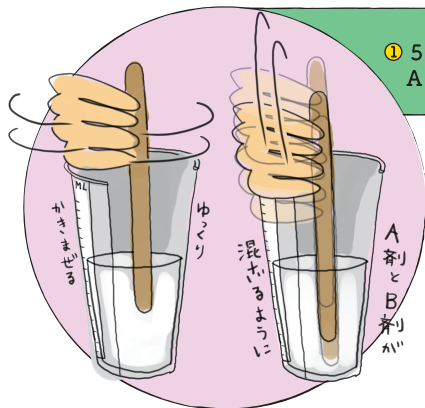
「波音カラー」は、1分間ゆっくりと攪拌した後に追加してください。

1滴ずつ垂らして確認してください。事前のカラーテストについては6ページをご確認ください。

- 「波音カラー」の修整方法は7ページです。

ディープウォーター
AとBを混合する③

ゆっくり慌てず慎重に。5分間混ぜ合わせる
ことで、「ディープウォーター」になります。



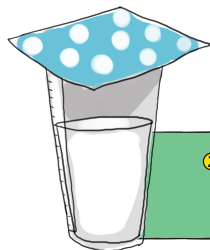
- ① 5分間の攪拌作業では、カップの縁や底に沈殿しているA剤がB剤と混ざるように注意してください。

「ディープウォーター クリアー」をお使いの場合、攪拌し始めると少し白く濁りますが、その後また透明に戻ります。

「ディープウォーター マーキー」をお使いの場合には、攪拌後もあまり変化はありません。また、クリアー・マーキーのどちらのディープウォーターでも注いだ直後のドロツとした状態から、さらさらとした薄い液体の状態に変化します。

事前に十分に温めていないとA剤はとても硬い状態で、かき混ぜる際に余計な力が入ってしまい、泡立ちが多くなったり濁りの原因となります。

温めた後でも、攪拌中に少量の泡が発生することがありますが、問題ありません。ディープウォーターが硬化するにつれ徐々に消えます。



- ② 5分間の攪拌後に膜ができてしまう可能性を軽減させるためには、カップに蓋をして5分間放置し、その後また5分間攪拌することをおすすめいたします。

混合したディープウォーターをジオラマの中に注ぐ①

一度に注げる量は、1.3cmまで。

① 一番低い場所、または一番深い場所から注いでください。自然に水平になります。

細い線を描くように
少しずつ注ぎます。



水の断面が見えるような
ジオラマの場合には、
“「ディープウォーター」漏れ”に
ご注意ください。

水景の周りの樹木
などは、硬化後に
造りましょう。



ディープウォーターを一度に注げる最大深度は

1.3cm です。

(13mm)



1.3cm それ以上の深さを造る
には、1.3cmの層を何
層にも重ねることで可
能になります。

水層の増やし方

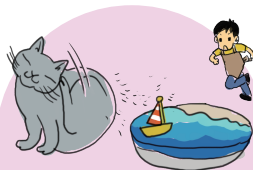
約4時間後、前に造った水層の表面がベタベタした状態になったら、新しい水層を造ることができます。新たな水層を下の水層にしっかりと結合させるには、下の水槽が完全に硬化する前に注いでください。

目立たない場所を爪楊枝などで突き、粘着質の状態を確認することで、表面のベタベタを判断することができます。

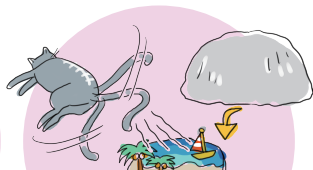
混合したディープウォーター
をジオラマの中に注ぐ②

硬化中は埃や風が大敵です。

- ① ディープウォーターをジオラマの中に注いだら、なるべく動かさず、しっかりした台の上で約24時間硬化させます。



埃やゴミの混入に注意しましょう。
(入ってしまった場合はピンセットを
使って取り除き、水面をかき混ぜない
ようにお気をつけください)



風が直接当たらない
ようにしましょう。



アルミホイルをドーム状にして、
4時間以上水景全体に覆いかぶせ
てください。

- ② ディープウォーターは硬化中に熱を発生しますが、アルミホイルのドーム内を暖かく保つ
ことで硬化は早まります。

アルミホイルが水景
に接触しないように
ご注意ください。



「膜」ができてしまったら…

ヘアドライヤーを低温設定
にして、約5分間ゆっくりと
前後に動かしながら温めて
ください。

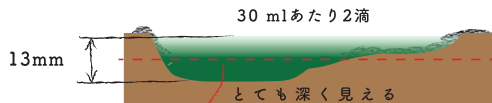
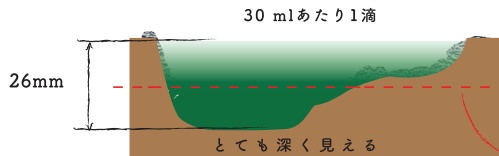
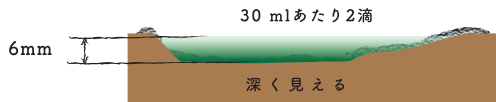
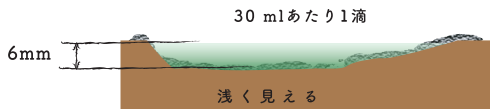
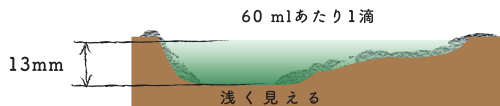
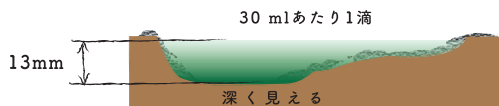


もっと詳しく！ ディープウォーターと「波音カラー」の関係。

透明度は「波音カラー」の量とディープウォーターを注ぐ場所の深さで決まります。

おぼん

浅瀬と深淵の対比を、透明度を保ったまま一番美しく造る方法は、ディープウォーター30mlに対し「波音カラー」を一滴加えたものを、約1.3cm(13mm)の深度で造る事です。



2層にすることで濃さ(深さ)を表現することができます。



ideamemo



「ideamemo」は「アイデアメモ」の略で、アイデアをメモするツールです。



ウォーターシステムの
もっと詳しい情報は



KATOの新しいジオラマ材料サイト
WOODLAND&KATO特集ページ
<https://www.diorama-zairyo.com/woodland-kato>

アクセスしてください。

使い方の動画も
ご覧いただけます。

